

イザヤ書 57 : 19、コロサイの信徒への手紙 3 : 12~17
「キリストの平和」

【前奏】

【招詞】 詩編 95 : 6~7

【祈祷】

【聖書】 イザヤ書 57 : 19、コロサイの信徒への手紙 3 : 12~17

【説教】 「キリストの平和」

<平和とは>

8月の第一週目の主日では、日本基督教団の教会では「平和聖日」として、主なる神さまに平和を求めて祈る日としています。8月は、先の第二次世界大戦で、6日の広島への原爆投下、9日の長崎への原爆投下、そして15日の終戦の日を思い起こします。

しかし、特に今年は、この過去の戦争のことだけではなく、今現在、ウクライナとロシアが、まさに戦争の真っ最中であることを思います。今日のこの日も、怯えている人々、嘆いている人々、傷ついている人々、そして命を失う人々がいます。たくさんの方たちが日常生活を失い、愛する人を失い、心の平安を失っています。

そして、実は世界では他の国々でも、ずっと争いや暴力の中にいる人々があり、貧しさや、飢えや、病気で苦しんでいる人々があることを、思い起こさなければなりません。

ニュースで取り上げられれば、わたしたちは心を痛めて、自分に何かできないかと考えることもあるでしょう。しかし、国と国とのこと、遠く離れた地のことです。わたしたちの力は、とても小さく、無力に思えます。

国際的に立場のある人は、問題の解決のために尽力し、対話を繰り返していますし、行動力や賜物がある人は、その地に駆けつけて、多くの働きをして、困っている人々を助けて下さっています。それが出来る方たちの働きが用いられ、一人でも多くの方に助けと慰めが与えられることを願います。関係する為政者たちが正しく判断できるよう導きを祈ります。

しかし一方で、わたしたちの殆どは、できることが限られており、その力も、行動力もなく、日々無力感を募らせているだけかも知れません。

そんな時に、ふと思い起こすのは、マザーテレサの言葉です。あまりに有名な言葉ですが、彼女がある人に「世界平和のためにできることは何ですか？」と質問されたことがありました。それに対して彼女は、「家に帰って家族を愛してあげてください」と答えたのです。

世界平和の第一歩は、身近な人を愛することからである、と言います。確かにそうです。自分の隣にいる人を愛することができないのに、どうして世界の遠い地の、名も知らぬ人々を愛することができるのでしょうか。

そもそも「平和」というのは、国と国の間に戦争がなければそれで良いものではありません。戦争状態ではなくても、そこに貧しさに苦しむ人や、孤独な人、傷ついている人、絶望を抱えている人がいるならば、どうしてそれを「平和」などと言うことができるでしょうか。

本当の平和というのは、この地上に、神さまの思いが実現することです。

それは、まず神さまに造られたすべての人々が、一人一人が、神さまに愛されていることを知り、神さまを愛するようになること。そして、同じ神さまに愛された者同士、人と人もまた、互いに愛し合うようになることです。

この地上に立てられた教会、わたしたちのこの小さな群れは、その神さまの平和を、この地上で真っ先に体現する存在と言えるでしょう。教会は、神さまの愛を知り、それに応える者とされた者同士が、神さまの許で、一つの共同体として、共に愛し合いつつ、祈り合いつつ、歩んでいる群れです。

もちろん、わたしたちは、未だ不完全な者であり、この神さまの共同体の中にありながら、争いが生じたり、傷ついたり傷つけてしまったりということが起こります。

しかし、ここに集まっているのは、そもそも、個人の好みや、選択や、決意によるものではありません。神さまが選んでくださり、救ってくださり、愛してくださったから。神さまが罪を赦してくださり、招いてくださったから、みんなここにいるのです。

わたしたちは、互いの個人の思いではなく、神さまの思いによって集まっています。ですから、互いの間に何かが起こったとしても、神さまにあって共に歩んで行けるのです。

神さまの愛のご意志が、この教会の群れの中心にあります。そのように、神さまの御心が実現するところにこそ、わたしたち人間の本当の「平和」が実現します。

神さまの御心は、わたしたちが神さまの御許で、感謝と喜びをもって共に生きることです。

ですから、わたしたちは、この神さまの平和へ、神さまの愛へ、隣人を一人一人、招いて来ること。神さまの思いを知らせ、この神さまの恵みに、共に生きる人を招いて来ること。

それこそが、わたしたちに出来ることであり、なすべきことなのではないでしょうか。

<キリストの平和>

さて、そのことを覚えつつ、今日の聖書の御言葉を聞きたいと思います。15 節にはこう語られていました。「キリストの平和があなたがたの心を支配するようにしなさい。この平和にあずからせるために、あなたがたは招かれて一つの体とされたのです。」

ここには「キリストの平和」とあります。「平和」は、わたしたちが自分の手で造り出せるものではありません。平和とは、神さまからあずかせていただくものです。

聖書の平和は、旧約聖書では「シャローム」という言葉です。これは、欠けたり、損なったりせず、神さまのご意志にあって、人間が満ち足りている、充足している、という状態のことです。つまり、人間が、神さまとの良い関係の中に生かされ、神さまの恵みに満たされていること。これが、わたしたちの本当の「平和」です。

本当の平和とは、まず神さまと人間との間にあるべきものなのです。

しかし、わたしたち人間は、神さまに背き、神さまの御許から離れてしまった罪のために、神さまとの関係を自ら壊し、平和を失ってしまいました。

人は、神さまのご支配に従うより、自分で思い通りに支配することを望みました。神さまに生かされている恵みを忘れて、自分で生きているように思い込みました。そして、神さまはいらないといたり、いないと言ったり、自分が好きな他のものを拝んで神としたりして、神さまを大いに悲しませ、また大いに怒らせてきたのです。

わたしたちは、もう自分では神さまの御許に戻ることが出来ないほどに、神さまから遠く離れてしまい、滅びゆくしかない者でした。

しかし、そのようなわたしたちであっても、神さまはお造りになったわたしたち一人一人を愛し続けて下さり、憐れんで下さり、わたしたちが罪を悔い改めて、神さまの御許に戻ってくることをお望みになったのです。

そのために、神の御子イエスさまが、わたしたちの許に遣わされました。

この方が、わたしたちの罪をすべてご自分の身にお一人で担い、神さまの怒りと、罪の裁きをすべて引き受けて下さり、十字架で死ぬことによって、わたしたちに罪の赦しを得させて下さったのです。ご自分の愛する御子の命を与えてでも、わたしたちの罪を赦し、わたしたちを生かし、わたしたちと共に歩むことを、神さまは望んで下さったのです。

しかも、わたしたちは無条件で、イエスさまから罪の赦しを差し出されました。そもそもわたしたちには、罪を赦していただくために差し出せるものが何もありませんでした。罪があまりにも深く、自分の命を差し出したって、赦されないほどだったのです。

しかし、イエスさまがご自分の十字架の死によって、神さまの赦しを得ることが出来る道を拓いて下さいました。わたしたちはただこれに感謝して受け取るだけです。神さまがどれだけわたしを愛して下さっているか、どれだけわたしを憐れんで下さったか、どれだけわたしを大切に下さっているか。ひたすらそれを知らされ、感謝して受け取るだけなのです。

わたしたちは、神さまの一方的な愛によって、イエスさまから一方的に差し出された救いによって、神さまと和解させていただきました。罪を赦していただきました。神さまの愛する子どもとして、受け入れていただきました。

ここに、わたしたちの本当の「平和」があります。まず、わたしたちに最も必要なのは、この神さまとの間の「平和」、神さまと和解し、神さまに赦され、神さまの愛に満たされることなのです。

<人と人との平和>

そして、この平和を受け取る時、わたしたちはイエスさまの十字架と復活の恵みに結ばれて、イエスさまと一体とされて、神さまの子どもとして生きる者とされます。すべての救い

にあずかった者が、このお一人の救い主であるイエスさまに結ばれ、一体とされます。

わたしたちは、かつて、互いに罪人同士でした。しかし、このお一人のイエスさまの救いを信じるなら、わたしたちは神さまの子ども同士になり、このお一人のイエスさまに結ばれた者同士となり、互いにも結ばれ、一体とされるのです。

同じイエスさまの体に繋がる、わたしたちです。わたしたちの共通点は、イエスさま、ただこの一点です。でも、そこにこそ、まったく違うわたしたちが、一つとなって、一体となって、共に生きる道があるのです。

少し戻って13節には、「互いに忍び合い、責めるべきことがあっても、赦し合いなさい。主があなたがたを赦して下さったように、あなたがたも同じようにしなさい」とあります。

イエスさまがわたしのために忍耐して下さったから、イエスさまがわたしを赦して下さったから、わたしたちも互いに、忍び合うこと、赦し合うことへと招かれています。

これは、自分の決意や、努力で出来ることではありません。相手のことを忍耐したり、我慢したりすることが、どれだけ大変で疲れることか。また、自分を傷つけた者を赦すことが、どれほど辛く、悔しく、難しいことか。それは、それぞれがよく知っておられるだろうと思います。これは自分の力で、自分で抱え込んで、解決できることではありません。

しかし、ご自分の命を捨ててまで、わたしを赦して下さった主の御前で。相手のことも、命を惜しまずに救い、赦された主の御前で。わたしたちは互いに「忍び合い、赦し合いなさい」と語りかけられています。

わたしたちには出来ません。しかし、神さまにはお出来になります。わたしたちは、この神さまに頼るしかありません。イエスさまの赦しに、すがるしかありません。

罪によって絶望的に断絶してしまった神さまとわたしたちの間に、ご自分の命をかけて和解をもたらすことがお出来になる、主なるイエスさまが。わたしたちを共にご自分の体に結びつけ、一つにして下さった主なるイエスさまが。この困難も共に担って下さり、共に生きる道を拓いて下さるに違いありません。

まず、共にイエスさまの赦しの御前に出ることからしか、わたしたちは赦し合うということとは出来ないのです。

神さまの平和の中でしか、神さまに愛され、赦されているという恵みの中でしか、わたしたちは本当に互いに愛し合うということも、共に生きるということも、出来ないのです。

<平和への一歩>

でも、イエスさまの平和が、神さまの愛が、神さまの赦しが、すでにわたしたちには与えられています。「キリストの平和があなたがたの心を支配するようにしなさい」。イエスさまが与えて下さった罪の赦しが、神さまの愛が、あなたがたの心を支配するように、あなたがたを満たすように。そう命じられています。

わたしたちの内から、勝手に良いものが出て来ることはありません。

でも、イエスさまの愛と赦しのご支配の中に置かれているのなら。わたしの心に、キリストの言葉が、十字架と復活の福音が、わたしたちの内に豊かに宿るなら。わたしたちは、神さまの御心を行ないたいと願うことができ、また神さまがその力を与えて下さるのです。神さまの恵みによって、神さまが願っておられるように、生きる者とされていくのです。

12節には、「あなたがたは神に選ばれ、聖なる者とされ、愛されているのですから、憐れみの心、慈愛、謙遜、柔和、寛容を身に着けなさい」とありました。

憐れみの心、慈愛、謙遜、柔和、寛容。これもまた、努力や気合で身に着けられるものでは決してありません。これが出来なければ神さまに愛されない、というのであれば、わたしたちは全員あきらめなければならぬでしょう。

しかし、ここにはまず最初に、「あなたがたは神に選ばれ、聖なる者とされ、愛されているのですから」と語られています。

何も神さまに喜ばれることが出来ない、罪人であったのに。神さまに背き、裏切り、頑固で、自己中心的な者であったのに。それにも関わらず、まず、わたしたちは、神さまに選ばれ、聖なる者、つまり神さまのものとされ、愛されたのです。

すべては神さまの方から、最初に、すべて一方的に、注がれ、満たされたのです。

だからなのです。あなたはもう、すでに神さまが選んで救って下さったのだから。すでに神さまのものとされたのだから。すでに神さまの愛を受けたのだから。だから、あなたは神さまによって、イエスさまの恵みの中で、憐れみの心を覚えることができるし、慈愛を知ることができるし、謙遜を学ぶことができるし、柔和を志すことができるし、寛容な者へと変えられていくのだと。そのように生きることが出来るのだと、言われているのです。

わたしたちは、世界の平和を思いながら、すべての人の平和を願いながら、神さまの愛と力に支えられて、まず、近くに与えられた隣人から、家族から、友から、目の前にいる人から、愛すること、赦すこと、共に生きることを始めたいのです。

すぐにできなくても構わないのです。神さまの御心を思いながら、イエスさまがわたしにして下さったことを思いながら、そうしたいと願うことからしか、わたしたちは始めることが出来ません。でも、そのことを願い、祈ることから、始まるのです。わたしたちには出来なくても、神さまにはお出来になります。神さまは、わたしたちを新しく変えてくださることがお出来になります。

そこから、神さまの平和が確かに実現していきます。神さまは、ご自分の平和の実現のために、わたしたちを用いたいとお考えなのです。わたしたちの目の前にいる一人が、神さまの愛を知るようになるならば、神さまの平和に生きるようになるならば、この世界は、本当の平和に向かって着実に一歩進むことが出来ます。

やがて、世界の終わりの日には、この神さまの愛と恵みのご支配を、まことの平和を、再び来られるイエスさまご自身が完成させて下さるでしょう。

その日まで、わたしたちは祈りつつ、神さまの思いをわたしたちの思いとして生きること

を求めつつ、神さまと一緒に、隣人と一緒に、歩んで行きたいのです。

そして、この世界に、一日も早く神さまの御心がなりますようにと祈ります。

【お祈り】

天地の造り主であり、すべてを支配しておられる、父なる神さま

神さまの愛と恵みを忘れ、互いに愛し合うこと、赦し合うことが出来ず、争いを繰り返すわたしたちをお赦し下さい。この世の争いが一日も早く終わり、傷つき、怯え、悲しんでいる人々に一日も早く癒しと慰めと、心安らかな日々が与えられますように。

神さまに与えられた一人一人の命が、神さまに愛された一人一人の命が、本当にかげがえのないものとして、大切にされますように。

イエスさまの命を与えられ、救われ、神さまに深く愛されたわたしたちが、互いにも大切にし合い、愛し合い、赦し合うことが出来ますように。

キリストの平和が、世界中に満たされ、神さまの御心が、この地になりますように。

このお祈りを平和の主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン

【讃美歌】 393 「こころを一つに」

【信仰告白】 使徒信条

【献金】

【主の祈り】

【讃美歌】 27 「父、子、聖霊の」

【祝福】 主があなたを祝福し、あなたを守られるように。

主が御顔を向けてあなたを照らし あなたに恵みを与えられるように。

主が御顔をあなたに向けて あなたに平安を賜るように。

主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、
あなたがた一同と共にあるように。アーメン